

高校生から中学生に情報モラルをプレゼンテーションする授業実践
Class procedure where high school students perform a presentation
on internet safety to junior high school students

岡本 弘之

Hiroyuki OKAMOTO

京都教育大学大学院生

聖母被昇天学院中学校高等学校教諭

Assumption High-school

浅井 和行

Kazuyuki ASAI

京都教育大学

Kyoto University of Education

要約:高校における情報科の最終課題として、「中学生1年生に情報モラルをプレゼンテーションする課題」を設定し授業実践を行った。この実践を通し、高校生は情報科授業での学びと自分たちの経験を振り返りそれを表現し伝える力の育成を、プレゼンテーションを受ける中学生は先輩から情報モラルについて教えてもらう学びを、その目的とした実践について報告する。

キーワード: 高校、情報科、授業、情報モラル、情報教育

1. はじめに

この授業を企画した意図は次の2点である。

- ①情報科の最終課題として、既習事項を総動員した授業を企画したかったこと。
- ②授業のための発表ではなく、明確な目的のあるプレゼンテーションとしたかったこと
- ①は情報収集・グループでの話し合い・情報表現・プレゼンテーション技法・情報モラルの知識といった2年間の情報科の既習事項を生かしたかったこと。

②は「発表の授業のための発表」ではなく、「中学1年生に伝えるために行う」という明確な目標設定を行い、その場を実際に設けることで、相手意識をもち、制作へのモチベーションを上げることを考えた。

同時に中学生に伝えるために準備をする過程で、高校生にもう一度知識を思い返し、自分のインターネットの利用を振り返らせる機会になるはずであると考え企画した。

2. 授業のねらい・つきたい力

この課題はグループ制作とし、授業を通し、生徒に身につけさせたい力を次のように設定した。

- ①グループで話し合い、企画を練り上げる力
- ②経験を踏まえ、相手に何を伝えたいかニーズをつかむ力
- ③企画に必要な情報を、インターネット・書籍から情報選択・収集する力

- ④集めた情報を整理し、相手に伝わりやすいよう、情報伝達の方法を工夫・選択する力
 - ⑤まとめた内容を、実際にプレゼンテーションする力
 - ⑥作業を通して自分たちの情報モラルについて振り返り、かつ改善する力
- これらの項目について、後に述べる評価において検証することとする。

3. 授業の展開

この授業は中学1年生への実際の発表を除き、5時間で企画・展開をした。

①導入 (1時間)

制作課題を提示し、対象(中学1年)、伝えるべき内容(情報モラル)、方法(コンピュータは使用しなくてもよい)を指示した。

その後、グループでのブレインストーミングを行い、最終的には企画書に何を?(内容)、どんな形で?(方法)を記入させた。

②制作・準備 (3時間)

グループで分担し、情報収集、制作物の準備、発表時の台本制作などを行った。制作が終われば、リハーサルを行い、綿密な準備をさせた。

③発表・相互評価 (1時間)

授業内で実際に発表するチームを決める予選と、それに向けたアドバイス会も兼ねて、全グループに発表させた。その際に、発表態度(目線・言葉づかい)、内容(ボリュームと調べた内容)、方法

の工夫、説得力（統計・データの用い方）の4観点で相互評価・教員評価を行い、気付いたことをコメントに書かせた。

4. 生徒の発表事例

生徒の発表内容・方法は次のようなものだった。

①出会い系サイトの危険性についてストーリーを作り、漫画の冊子として配布した

②出会い系サイトで起こった事件を再現ドラマ風にスライドを使って説明した

③プロフ・ブログを作る際の、肖像権・個人情報の扱いについて、いい例・悪い例を比較紹介

④ブログで悪口を書いて起こりがちな友人同士のトラブルの例を寸劇で演じた

⑤チェーンメールについて、実際の例・問題点・対応の方法をスライドで紹介した

内容としては、中学生が被害者・加害者となりがちなケースを選び、また伝える方法も工夫したグループが多かった。

これらの発表のうち、中学1年担任が伝えたい内容を絞り込み、②と④のグループに中学生への発表をしてもらうこととなった。

5. 授業の分析と評価

生徒への効果をはかるためにアンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

	はい	どちらか といえは はい	どちらか といえは いいえ	いいえ
(1)相手を意識して制作できたか	24	12	3	0
(2)中学時代の経験をふまえることができたか	22	10	6	0
(3)制作を通してより詳しい知識が得られたか	22	14	2	0
(4)制作で得た知識はこれからの利用に役立つか	26	11	1	0
(5)ネット利用についてさらに知識を得たいと思ったか	22	13	1	0
(6)授業で得たソフトの操作技術は今回の役に立ったか	29	8	1	1
(7)授業で得たモラルの知識は今回の役に立ったか	19	17	2	0
(8)授業で得たプレゼンの知識は今回の役に立ったか	29	8	1	0

（高2 情報選択者 39 名が回答、無回答あり）

また下の表は、これらのプレゼンテーションを聞いた中学1年のアンケート結果である。

	はい	どちらか といえは はい	ふつう	どちらか といえは いいえ	いいえ
A.説明はわかりやすかったですか	62	10	3	0	0
B.説明の内容は興味をもてるものでしたか	51	16	8	0	0
C.先生より先輩が説明したことでより興味を持つことができましたか	57	11	7	1	0
D.教えてもらったことは今後の参考に なりましたが	57	12	7	0	0

（中1 全生徒 75 名が回答、無回答あり）

これらのアンケート結果と、ワークシート・授業観察結果と、最初に目標として設定した6つの観点について、評価してみる。

・目標①について

授業観察・ワークシートの記録から相談して企画を練り上げていた

・目標②について

アンケート(1)(2)の回答から、経験を踏まえ中1に何を伝えればいいのかと考えていた

・目標③について

ほとんどの情報をインターネットから収集し、かつアンケート(3)から、より深い知識を得た

・目標④について

授業観察で「この漢字読めるかな？」など対象に伝わるよう工夫する姿が見られた。方法についても漫画・例示など、退屈させないよう伝えようとする工夫が見られた

・目標⑤について

中1 アンケート(A)・(B)の項目から、プレゼンテーションは生徒によく伝わったようである。

・目標⑥について

アンケートの自由記述や企画書で、自分たちの経験を振り返って反省を書いていた生徒が複数あった。また自分の知識が深まったとの記述もあり、伝えようとする中で、「自分はどうかだろう」と振り返ることも多かった。

6. まとめ

以上の分析から、今回の授業は発表する高校生にとって、多くのことを学ぶ実習となった。

プレゼンテーションで大切な相手意識を育てる意味でも、その伝える内容を作っていく過程の両方が、生徒にとっての学びであった。

中学1年にとっても、先輩から聞く情報モラルの内容は、新鮮に映ったに違いない。

情報モラルをどのように効果的に・興味を持たせて教えるかについて、今後も工夫と実践を重ねていきたい。

<参考文献>

小泉宣夫監修「情報心理」日本文教出版 2009 年
水越敏行監修「新・情報C」教科書

日本文教出版 2008 年